

本調子 つゐんだら節 尺 = 尺

前奏・間奏・後奏

①

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
七	七	五	工	工	五'	中	工	上 ^注	工	乙	合	
4	4	2	1	1	2	六	1	五	2	1	二	-

②

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
工	合	工	七	五	工	工	中	上	工	五'	工	合	上'
さ			とう	ば	ら	ま	あ	とう	ば	あ	あ	あ	よ
さ			す	ま	とう	とう	う	み	で	う	う	む	う
さ			す	ま	ば	が	あ	り	で	う	う	ふ	あ

六五工尺中上四

工	工	工	工	工	工	工	工	工	工	工	工	工	工
1													
1		1	1	2	2	1	1	1	1	六	六	五	五

③

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
工	五	工	七	五	四	七'	五	七	五	工	五'	工	上
お	お	お	す	う	う	り				や	ら	び	か
										あ	ら	ぬ	あ
										あ	ら	ぬ	あ
										あ	ら	ぬ	あ
										あ	ら	ぬ	あ

七六五工尺中上四

工	工	工	工	工	工	工	工	工	工	工	工	工	工
1													
1		1	2	1	1	2	4	4	2	1	1	2	2

④

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
中	工	上	四	合	四	乙	四	合	四	上'	中	工	上	四	合	五'
と	お	お	お	お	ら			あ	あ	つ	ん	だ	ら	つ	ん	だ
だ	あ	あ	あ	あ	あ	ら		あ	あ							
ら	あ	あ	あ	あ	あ	れ		え	え							

尺中上四老乙合

上	上	中	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
五	五	六	五	四	四											

⑤

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
七	七	五	工	工	五'	中	工	上 ^注	工	乙	合	四	中	上	四	
													か	な	し	や
													ま	あ	と	う
													あ	ら	あ	う
													う	く	う	う
													う	ば	た	ん
													ん	が	あ	ど
													う			う

尺中上四老

上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上
4	4	2	1	1	2	六	1	五	2	1	二	-	四	四	五	五
4	4	2	1	1	2	六	1	五	2	1	二	-	四	四	五	五

本調子 つるんだら節 2 尺 = 尺

⑥

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
上	合	工	五	工	合	上	工	五	工	七	五	四	七	五	
り	とう	や	あ	あ	よ			お	お	お	す	う	う	り	く
い	す	ぬ	う	う	よ			お	お	お	す	う	う	り	み
け	な	り	い	よ				お	お	お	す	う	う	り	ぬ

七六五工尺中上四

五	五	1	2	2	1	—	—	1	1	2	2	4	2	四	4	2	1
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

⑦

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
七	五	工	五	工	上	中	工	上	四	合	四	乙	四	合
ゆ	さ	か	あ	ら	ぬ	む	う	つ	り	と	お	お	お	ら
まい	か	あ	ら	ぬ	う	う	さ	す	ぬ	ぬ	ぬ	ぬ	う	う
あ	く	う	に	い	ば	あ	ぎ	い	ら	あ	あ	あ	え	え

七六五工尺中上四卷之合

1	2	2	1	1	1	1	六	五	五	五	五	六	五	四	四	—	—	—	二	四	—
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

⑧

1	2	3	4	5	6	7	8
四	上	中	工	上	四	合	五
だ	ら	つ	ん	だ	ら	あ	よ

尺中上四卷之合

四	五	六	六	五	五	四	四	—	—	—	—
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

注 ①、⑤段の三線 **上五** は「上」を押さえている人差し指を「上」を押さえたまま寝かせて「五」を押さえます。

八重山の曲です。郷愁を込めて唄いましょう。○で囲ったところは「よ」や「ら」が三線の表と一致していません。(すこし後ろ倒しになっています。) まずは、三線の表と一致させて、唄三線を安定させましょう。～の部分は、いわゆるコブシが回る部分ですが、これも唄三線が安定するまでは、無視してください。安定させた後に、味を出す練習をしてください。

三線では、直前に弾いた弦と異なる弦の打音が出てきますが、これも唄三線が安定するまでは打音とせず、通常通り弾き、安定後に挑戦しましょう。挑戦するときは、小さな音にする目的ですので、はじめは音が出なくてもかまいません。